

序

本書を手にとっていただきありがとうございます。

社会構造の変化とともに24時間社会となり久しいこの頃であります。睡眠障害は本人の健康を害するだけでなく、大きな社会的問題となっていることは明らかであります。世代を超えた国民病とも言われております。国内ではおよそ5人に1人は睡眠障害とされ、日中の生活機能障害が問題視されています。この障害による国内の経済的損失は実に3兆円を超えるという統計もあり、その対策は国民の健康問題としてだけでなく、日本経済にとっても早急に解決されなければならない課題です。

一方で、睡眠障害のなかでも睡眠時無呼吸症は成人の2～4%を占める疾病で、日中の激しい眠気のため社会生活に大きな影響を及ぼすとともに、無呼吸とそれに伴う低酸素血症および睡眠の断片化が原因となって、高血圧、メタボリックシンドローム、心血管障害や脳血管障害を合併します。社会資源の損失であるだけでなく、本人の健康や生命に大きな脅威を与えています。

このような現状を解決するため、快眠センターが2009年11月に東京医科歯科大学医学部附属病院においてスタートいたしました。また、3年後の2012年10月に同歯学部附属病院にて快眠歯科（いびき・無呼吸）外来が発足しました。医科（呼吸器内科、精神神経科、耳鼻咽喉科）と歯科（快眠歯科、頸関節治療部、義歯外来、総合診療部、歯科技工部）が連携して診療に充たっていますが、快眠センターが発足する以前の2009年10月19日より診療連携を深めるため、これらの診療科が集まって快眠センター会議を毎月開催しています。この会議での討論によって、診療における勘どころや連携診療を成功させるヒントが具体化することも少なくありませんでした。本書はそのエッセンスを詰め込んでおり、この会議内で討論された疑問や議論が本書の前半の「Q&A」に、症例検討が後半の「診療の実践」パートに反映されています。

本書の作成に際し、ご協力いただきました関係各位に、心より御礼申し上げますとともに、皆様には本書を日々の睡眠時無呼吸症および睡眠障害の診療に役立てていただければ幸いです。

2018年4月吉日

宮崎泰成　秀島雅之